

— 生誕130年 —

# 竹久夢二と 大正浪漫の世界

この秋、京都で夢二に逢う

入館  
無料

2014年

11月6日(木)~12月5日(金)

午前10時~午後5時

会期中毎日開館  
入館は閉館の30分前まで

主催：京セラ株式会社、京都国立近代美術館 共催：京都市  
後援：京都府、京都新聞、KBS京都、日本経済新聞社京都支社、読売新聞京都総局、  
朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、産経新聞京都総局(敬称略)

## 京セラ美術館

〒612-8501 京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地  
京セラ本社ビル1階

TEL:075-604-3500(代表)

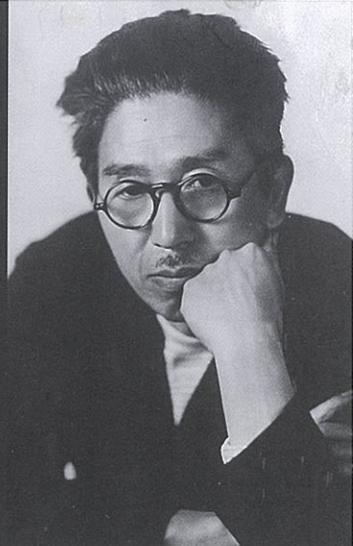
- ① 近鉄京都線または市営地下鉄・烏丸線「竹田駅」西口より、バスで「バルスプラザ前」下車すぐ(約5分)
- ② 京都駅八条口から「京都らくなんエクスプレス」バスで「京都バルスプラザ・京セラ前」下車すぐ(約15分)
- ③ 京阪中書島駅より、竹田駅西口行バスで「バルスプラザ前」下車すぐ(約10分)
- ④ バス停「西大手筋」より、竹田駅西口行バスで「バルスプラザ前」下車すぐ(約7分)

<http://www.kyocera.co.jp/art/>



# 竹久夢二と大正浪漫の世界

竹久夢二(1884~1934)は大正浪漫を代表する画家です。出身は岡山県ですが、32~34歳の2年間を京都で暮らすなど、京都にゆかりのある画家でもあります。日本文化と西洋文化が交じり合い大正浪漫として花開いた当時、夢二の描く抒情漂う日本女性は、新聞や雑誌を通して、多くの人々の心をとらえました。「夢二式」と呼ばれる美人画で知られた夢二ですが、絵画の他にも、本の装丁をはじめ、千代紙や便箋などのデザインを数多く手掛けています。また詩人としても活躍し、夢二作詞の「宵待草」は一世を風靡しました。本展では、この夢二の幅広い活躍をご覧いただきたく、京都国立近代美術館所蔵コレクションより、肉筆画、セノオ楽譜の表紙絵、装丁本、便箋・封筒、絵葉書、千代紙、ポスターなど選りすぐりの約100点を展示いたします。魅力あふれる、竹久夢二の世界を是非ご堪能ください。



類友をつく夢二(昭和初期) 竹久夢二美術館提供

## 竹久夢二 プロフィール (※夢二の年は満年齢で記載)

1884(明治17)年		岡山県邑久郡本庄村に酒屋を営む竹久菊蔵の次男として生まれる 本名は茂次郎(もじろう)
1901(明治34)年	17歳	家出して上京
1902(明治35)年	18歳	早稲田実業学校に入学
1905(明治38)年	21歳	『中学世界』に投稿したコマ絵が入選、この時「夢二」の名を用いる
1907(明治40)年	23歳	岸たまきと結婚する
1909(明治42)年	25歳	初の著作となる『夢二画集 春の巻』を刊行
1912(大正元年)	28歳	京都府立図書館で「第一回夢二作品展覧会」を開催
1914(大正3)年	30歳	日本橋区呉服町に「港屋絵草紙店」開店
1916(大正5)年	32歳	京都へ移る
1917(大正6)年	33歳	京都 高台寺南門鳥居わきに居を構える
1918(大正7)年	34歳	京都府立図書館にて「竹久夢二抒情画展覧会」を開催 セノオ楽譜「宵待草」を刊行(楽譜の表紙絵とともに作詞も手がける) 東京へ戻る
1923(大正12)年	39歳	『夢二画手本1~4』刊行 恩地孝四郎らと「どんたく図案社」発足の宣言文を発表するも、 関東大震災により印刷を請け負っていた印刷所が壊滅し中止
1924(大正13)年	40歳	東京府佐原郡松沢村松原にアリエ付き住居「少年山荘」建築(現・世田谷区)
1930(昭和5)年	46歳	「手による産業」の育成を提唱し、「榛名山美術研究所建設につき」の 宣言文を発表
1931(昭和6)年	47歳	渡米。翌年にはヨーロッパをまわり、ベルリンではヨハネス・イッテンが 主宰する「イッテン・シューレ」で日本画を指導
1933(昭和8)年	49歳	帰国
1934(昭和9)年	49歳 11ヶ月	療養先の信州富士見高原療養所にて逝去 東京・雑司が谷霊園に眠る



セノオ楽譜No.106「宵待草」  
1918(大正7)年初版発行(再版)



セノオ楽譜No.169「影ふめば」  
1920(大正9)年発行



風景 1933(昭和8)年



柳屋便箋(奈良の塀)  
大正期



柳屋便箋(安来節)  
大正期



「夢二絵葉書集」より  
1935(昭和10)年頃



千代紙(藤の花)  
大正後期

※すべて京都国立近代美術館蔵



京セラ美術館 <http://www.kyocera.co.jp/art/>

京セラ美術館は、京セラ株式会社を取り組む社会貢献活動の一環として、地域文化の発展を願い、1998年10月に本社ビルの1階に開館しました。主な収蔵品は、乾隆ガラス、ピカソ銅版画347シリーズ、現代日本画、ファインセラミック茶器、彫刻、洋画です。これらの収蔵品を中心に、常設展示しています。